

1期目 市政改革の 1461日

～そして未来へ～

入間市長

杉島
理一
郎

CONTENTS >>

Special interview	p2
市長公約の達成度を評価！	p6
注目!! 1期目4年間の取組	p8
新型コロナウイルス対策	p13
データで見る入間市の強み	p14
2期目への挑戦！	p15

市民とともにつくる 「未来共創」の まちづくり

令和2年11月に入間市長に就任した杉島理一郎氏。コロナ禍を経て、「未来共創のまちづくり」を掲げ、パーパスの策定やヤングケアラー条例の制定など、全国でも注目される政策を次々に実行し、入間市に新しい光をもたらしている。これらの市政方針にはどのような背景があったのか。4年間の取組とともに今後の市政ビジョンを杉島市長に聞いた。

—市長に就任されて1期目が終わろうとしています。この4年間で振り返っていかがでしたか。

入間市の時計の針を前に進めるため、徹底的に挑戦し続けた4年間でした。10年分の仕事を一気に進めてきたという実感を持っています。県議会議員時代から、入間市には“井戸の中で静かに時を過ごす”というような感覚があって、新しいプロジェクトを提案しても全く取り合われないという経験をしました。実際に、ある市幹部職員から「入間市は堅実に事業を実行するのですが、新しいことやるのは苦手なので無理ですよ」と言われたこともありました。

市長に就任し、入間市が積み残してきた行政課題や経営に多くの問題があるなど改めて感じました。さらに、私が就任した2020年は、まさに新型コロナウイルスの感染対策の真っ只中。社会全体も混乱したこんな時だからこそ、物事を前に進めていく強いリーダーシップが必要でした。

—具体的にどのような課題に取り組まれてきましたか。

例えば、入間市駅の北口の区画整理の問題ですね。本来終わっていなければいけない土地区画整理事業が長期化し、終わりが見えない状況になっていたのですが、そこに積極的に集中投資をして、ロードマップを作り、事業を一気に進めました。また、これまで手を付けられていなかった新産業団地や駅前留保地の開発についても、同様に前に進めています。

「行かなくても済む市役所」を作るために、県内で初めて、コンビニで住民票などの証明書発行を10円で取れるようにもしました。その結果、市民の皆さんは市役所に行き長時間待って証明書をもらう必要がなくなりました。近くのコンビニで取れるようになり、コンビニ交付件数はものすごく伸びています。

杉島 理一郎 入間市長

昭和57年、入間市生まれ。入間市立東町小学校、入間市立東町中学校、早稲田大学高等学院、早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。平成17年に日本政策金融公庫に就職し、松下政経塾を経て第12代防衛大臣を務めていた小野寺五典の秘書となる。平成27年に埼玉県議会議員選挙に当選、以降2期務め、令和2年11月に入間市長に就任。



—市長は思い切った行政改革を進めました。 どのような思いだったのでしょうか。

今、入間市は人口のピークを越え、これから一気に人口が減少していきます。一方で高齢者人口は増えていく。財源が減るなかで、医療や介護にかかるお金は増えていくこの状態を放置しては、確実に財政はもたないと、強い危機感を持ちました。

入間市は、もちろんこれまでも行政改革に一生懸命取り組んできたのだと思っています。しかし、最後まで手のつけられない、そのままにしていた部分があり、それこそが一番大きな課題でした。市の未来のために、どんなに反発があっても必ずやり遂げなければいけない、という強い思いを持って断行してきました。一方で、入間市は、「稼ぐ市役所」として、ふるさと納税を600万円から1億5,000万円まで増やしました。そういった財源を生み出す行政改革も着実に進め、可能な限り健全な財政運営に努めています。

—今まで動かなかった事業を動かすことは、 相当なパワーが必要だったと思います。

そうですね、かなり大変でした。目の前に危機的な財政状況がある中、本気の行政改革をやらないと入間市は生き残れない。長期的に見れば行革を進め、その財源を使ってここで集中投資をすれば必ずリターンがあり、将来の市民生活の向上に繋がると考えました。長年の懸案と

なっていた土地区画整理事業を前に進められたことは、これまで内向的だった入間市のマインドを変え、「失敗を恐れずにどんどん挑戦をしていこう！」というチャレンジスピリッツを職員と共有するきっかけになったと思います。

—ヤングケアラーなど福祉の視点も大切にされてきた印象があります。

そうですね。ヤングケアラーは、大人が担うような家事や家族の世話、介護などを行っている子どものことですが、入間市ではヤングケアラーを適切に支援していくために、全国で初めてヤングケアラー支援条例を制定しました。社会的に配慮が必要な方に対し、みんなで集めた税金で生活を保障していくことは、行政の重要な役割の一つです。「必要な市民に必要なだけ届ける」というメリハリのきいた支援を行っていきたいと思っています。

—高齢者の外出のための公共交通の整備にも 取り組まれています。

高齢者の介護予防のために外出する足を確保するという実証実験を行いました。今、新しいデマンド交通の導入に向けて、公共交通協議会で議論してもらっています。公共交通網が見直されれば、高齢者をはじめ市民の皆さんに交通の利便性をさらに実感していただけるようになると考えています。

—市長の思いが詰まったパーパスを策定されました。県内初の取組です。

パーパスは、「常に未来を見て、描きたい未来から逆算をして今を創っていこう」、そんな思いを形にした共通言語を市民の皆さんと持ちたいと考え策定しました。良い未来、良いまちは行政だけでも、市民だけでも創れません。「幸せなときもつらいときも、それを共有し、100年後の入間の未来を見据えたまちづくりをしよう」、これこそが私たちの存在意義だということを、「未来共創」という言葉でお伝えしました。

—「未来共創」、素敵な言葉ですね。

ありがとうございます。この4年間で入間市は、国から「SDGs 未来都市」に選定されたほか、「地域DX推進ラボ」などにも選定されました。「未来共創」をキーワードに、官民協働で取り組む様々なプロジェクトが進んでいて、入間市のまちづくりに活かされています。

—いよいよ2期目の挑戦が近づいています。 次の4年間に向けたお考えを教えてください。

改革を断行して、強いリーダーシップで前に進んできた1期目だったと思っています。変わりゆく政策課題や社会課題に柔軟に対応し、色々な手を打ってきました。この4年間で、入間市に「未来共創」の種を蒔くことができたので、ここからは、市民の皆さんと同じ方向を見て一緒に一步一步着実に歩みを進めていく段階になります。市民や民間、行政との協働をより一層進め、みんなで前へと進めていけるようなまち



づくりをしていきます。

1期目の公約の自己評価は87点でした。勉強不足な点、取組が足りなかった点もあり、市民の皆さんの期待に応えられなかった部分もありました。1期目に達成できなかった政策に引き続き取り組むとともに、これからも沸き起こってくる社会課題に対して的確に、未来志向で物事を判断し、政策を進めていきたいと思っています。市民の皆さんから100点をいただけるようがんばります。

—最後にプライベートの過ごし方について教えてください。

市政の命運を決定する判断を持つ市長の仕事は、まさに命がけだと思って日々取り組んでいます。就任時、私は37歳。幹部職員の皆さんは全員私より年上で、先輩方の胸を貸していただきつつも、やはり相当なプレッシャーを感じながら仕事をしていました。

そんな日々のなかで、妻や大学生、高校生、小学生、幼稚園の4人の子どもたちと接しているときはとても癒されます。早く帰れたときは、子どもたちとお風呂に一緒に入ったり、夕飯と一緒に食べたり。ほっとする一方で、この子たちの未来を考えたら、手を抜いてはいられないな、と新たな思いも湧いてくるのです。家族と過ごす時間など、日々のプライベートを大切にすることも、仕事へのモチベーションに繋がっていますね。

—今日はありがとうございました。



総合評価

87点 / 100点

市長公約「RISE UP宣言」の達成度を
杉島市長が自己評価し、それを市民の皆様
に検証していただきました。

4年前の入間市長選挙で市長公約として掲げた「入間市RISE UP宣言」は、
6分野30本の政策宣言、9本の条例宣言、3つの行動宣言で構成されています。

1 政策宣言(合計255点/300点 達成度85%)

		項 目		評価点	合計
第1章	デジタル 未来都市	1	【デジタル】 デジタル未来都市推進部門の設置&特命人材の公募	10 / 10 達成	38 / 40
		2	【デジタル】 「来なくても済む市役所」の実現	9 / 10	
		3	【デジタル】 未来産業の集積用地の創出・企業誘致	9 / 10	
		4	【デジタル】 AI・IoTを活用した地域課題の解決	10 / 10 達成	
第2章	命を守る 危機管理	5	【コロナ】 感染症対策本部(入間版CDC)の設置	9 / 10	28 / 30
		6	【危機管理】 危機管理対策本部(入間版FEMA)の設置	10 / 10 達成	
		7	【弱者支援】 困ったときのワンストップ相談体制の確立	9 / 10	
第3章	価値を生み出す 行政改革	8	【公共施設】 公共施設マネジメント計画の着実な推進	8 / 10	27 / 30
		9	【開発事業】 民間活力による開発事業の進展	10 / 10 達成	
		10	【行政改革】 メリハリの利いた事務事業の見直し	9 / 10	
第4章	活力ある 地域づくり	11	【観光】 入間ゲートウェイ構想による観光戦略	7 / 10	49 / 60
		12	【商業】 中心市街地の活性化・魅力的なスポットづくり	8 / 10	
		13	【工業】 入間版シリコンバレー構想による工業振興	7 / 10	
		14	【金融】 企業版ふるさと納税・クラウドファンディングの推進	10 / 10 達成	
		15	【商工業】 地域ブランドの振興とシティセールス	9 / 10	
		16	【農業】 狭山茶の産業振興・アンテナショップの開設	8 / 10	
第5章	安全・安心な 暮らし	17	【医療】 歯科口腔ケアによる健康づくりの推進	8 / 10	57 / 60
		18	【介護】 介護者の社会的孤立を防ぐケアラー支援	10 / 10 達成	
		19	【女性活躍】 女性が働きやすい環境の整備	7 / 10	
		20	【生活】 誰もが住みやすい安心な生活環境の充実	9 / 10	
		21	【障がい】 ノーマライゼーションの推進	7 / 10	
		22	【スポーツ】 地域密着型プロスポーツチームの誘致	7 / 10	
		23	【まちづくり】 自転車を活用したまちづくり	9 / 10	
第6章	未来への 人づくり	24	【子育て】 子育てパパ・ママの負担軽減	7 / 10	56 / 70
		25	【子育て】 元気な“いるまっ子”の遊び場づくり	7 / 10	
		26	【教育】 GIGAスクール構想の推進	10 / 10 達成	
		27	【教育】 世界で活躍する“いるまっ子”の育成	2 / 10※	
		28	【SDGs】 SDGsを活かしたまちづくり	10 / 10 達成	
		29	【職員教育】 リバースメンター制度による人材育成	10 / 10 達成	
		30	【職員教育】 国・県・民間企業等との人材交流の実施	10 / 10 達成	

※コロナの影響により横田基地や海外との連携・交流を推進できなかったことによるもの。

「入間市 RISE UP 宣言」の自己評価の詳細はこちら



2 条例宣言(合計41点 達成度91.1%)

条 例		評価点
1	スポーツ振興まちづくり条例	5 達成
2	自転車活用まちづくり条例	5 達成
3	ケアラー支援条例	5 達成
4	SDGsをまちづくりに活かす条例	5 達成
5	狭山茶主産地のまちづくり条例	5 達成
6	地域ブランド振興条例	4
7	子どもの遊び場づくり条例	2 ※
8	犯罪被害者支援条例	5 達成
9	迷惑防止条例	5 達成

※遊び場に限らない「入間市子ども計画」を策定中。

3 行動宣言(合計15点 達成度100%)

項 目		評価点
1	ウィークリー市長現場訪問 【行動目標】 120カ所 / 4年間	5 達成
2	マンスリー市長学校訪問 【行動目標】 30カ所 / 4年間	5 達成
3	市長トップセールス訪問 【行動目標】 30回 / 4年間	5 達成

その他、タウンミーティングを10回開催(参加者575人)

●達成度の配点と自己評価点

区分	項目	1項目 5点満点	評価点 [360点満点]	達成度	100点を 配点	100点満点 評価点
政策宣言	60項目	300点満点	255点	85.0%	80点	68.0点
条例宣言	9項目	45点満点	41点	91.1%	10点	9.1点
行動宣言	3項目	15点満点	15点	100.0%	10点	10.0点
		360点満点	311点		100点満点	87.1点



市政検証大会にて市民評価

令和6年7月11日、入間青年会議所主催の「市政検証大会」が開催され、青年会議所役員と杉島市長がデジタル、商業、観光、農業、働き方、女性活躍、子育てなど、様々な観点からディスカッションを行いました。市民の皆さんからは、「杉島市長は4年間真摯に市政に取り組んでおり、確実に市長公約を実現してきている。子育てやデジタルなど市民ニーズが高い政策分野はまだまだあるので、引き続きがんばってほしい」などとエールをいただきました。青年会議所の皆さん、ありがとうございました。

注目!! 1期目4年間の取組 入間市の未来への投資! ~先進的な政策

①SDGs未来都市に選定

サステナブル・ブランド国際会議、SDGsパートナー制度、地元中高生の実践活動

内閣府が、SDGs達成に向けた先進的な取組みを進める都市・地域を選定する「SDGs未来都市」に、入間市は県内3番目に選定されました。2030年の入間市が「健康と幸せを実感できるWell-being City」となれるよう、「経済」「社会」「環境」の3つの側面から持続可能なまちづくりに取り組んでいます。



市内の企業や団体とSDGsを推進!



野田聖子大臣から選定証を授与

県内3番目



国内第一弾 県内初 ②地域DX推進ラボに選定

ビジコン開催、SPOBY、DX導入支援、EVシェアリング、電子商品券

経済産業省が、産官学金連携によるイノベーション創出などを旨とする地域を選定する「地域DX推進ラボ」に、県内初! 入間市が選出されました。DXによる地域経済の発展とWell-beingの向上を目指し、行政サービスの向上や地域産業・企業の強化を図っていきます。

県内第一弾 ③埼玉版スーパー・シティプロジェクト認定

地区センター開設、交通×ヘルスケアASOVO、
公用車EV化で災害時活用

令和3年度から地区センター整備によるコミュニティの再構築、高齢者の外出機会創出のための交通ネットワーク強化、災害被害対応のための太陽光発電等による電力(EV)の活用に取り組み、埼玉版スーパー・シティプロジェクトの第1弾に認定されました。



大野県知事とのタッグで政策推進



テレビや新聞など各種メディアで報道

④ヤングケアラー支援条例の 制定

全国初

1万人アンケート、家事ヘルパー派遣、
ヤングケアラーコーディネーター2名配置

入間市では、令和4年7月、全国初となるヤングケアラー支援条例を制定しました。日常的に家事や家族の世話をしているヤングケアラーの市内小・中・高生を早期に発見し、適切に支援するため、家事ヘルパーの派遣や学習支援を行いながら、全ての子どもが健やかに成長できる環境づくりを進めます。条例では、支援を受ける決定権のない立場の弱い子どもたちに対し、きちんと支援が届くよう、市や保護者、学校等、それぞれの責任と役割を明示しています。

⑤パーパスの策定

官民連携のパートナー企業などを紹介、官民連携プロジェクト

「心豊かでいられる、「未来の原風景」を創造し伝承する」。この言葉は、100年後の未来を生きる人たちからも、入間らしい素晴らしいまちだと感じてもらえるような、心豊かで幸せなまちをみんなで共に創っていくという「かけ声」です。パーパス策定は全国でもめずらしい取組ですが、パーパスで入間を知り、一緒にまちづくりをしようと声をかけてくださる企業や団体、個人の方が多くいます。皆さんとパートナーとなり、5つのシンボリックアクションの切口から、未来共創のまちづくりを進めています。



横浜で開催された国際会議に登壇



市政でのパーパス策定について講演

⑥パートナーシップ・ファミリーシップ制度の創設

全国6番目 県内初

トップフォーラム、ダイア5市連携協定

性的マイノリティである方が人生のパートナーとして生活を共にすることを市長に宣誓する制度を創設しました。令和5年2月には、ダイア5市で連携協定を締結。令和6年4月現在、7組の方が宣誓されています。性別にとらわれず、多様な生き方や価値観を認め合う、誰もが自分らしく生活できる社会の実現に向けて取り組んでいます。



ダイア5市長による協定締結式

⑦各種証明書のコンビニ交付 10円でマイナンバーカードを推進

全国初

自治体DX推進、マイナンバーカード交付率76%

全国初の取組として、入間市では期間限定で証明書のコンビニ交付サービスの手料を通常200円のところ10円に減額しました。これは、自治体DXの鍵となるマイナンバーカードの普及を進めるために実施したもので、令和6年3月31日現在、マイナンバーカード交付率は9.5%アップし76%となりました。



NHKの取材に応じ市長自ら交付を実演

⑧おいしい狭山茶大好き条例の 制定

関東初

茶畑テラス「茶の輪」オープン、
入間市博物館が「食文化ミュージアム」認定

市の特産物「狭山茶」の知名度と関心を高め、狭山茶と茶文化の振興を図っていくため、「おいしい狭山茶大好き条例」を令和4年10月に策定し、狭山茶を五感で体験できる新たな観光スポットとして、茶畑テラス「茶の輪」を作りました。多くの方々に茶畑景観の美しさや狭山茶の美味しさを体感していただき、観光振興・狭山茶振興につなげていきます。



お茶大使も出席した条例制定イベント



新たな観光スポットの茶畑テラス

ランキングでわかる 入間市の地域力！～受賞実績

①埼玉デザインマンホール人気投票 **県内1位** 「いるティーデザイン」第1位・金賞を受賞

入間市役所でマンホールカード配布中

埼玉県及び(公財)埼玉県下水道公社が実施した「第1回埼玉デザインマンホール人気投票」キャラクター部門で、「いるティーデザインマンホール」が1,101票を獲得し、県内エントリー30種類のデザインマンホールの中で第1位となりました。入間市役所でマンホールカードを配布しています！



知事公館で開催された金賞授与式

②継ぎやすいまちランキング **全国1位**

農地バンクによる狭山茶農家の事業継承

ニホン継業バンク「継ぎやすいまちランキング2022」で、入間市の事業継承の取組が全国第1位になりました。商工会、金融団、市が3者協定を締結し、市内中小企業に寄り添った支援をしているほか、農地中間管理機構(埼玉県農林公社)が行う事業継承の取組により、過去5年間の第三者承継の相談件数が200件、成約件数が95件となっています。



担い手や継承者に課題を抱える茶業

③東工大GXオープンイノベーション賞を受賞

エネルギー技術の社会実装研究開発、 カーボンニュートラル社会の実現

全国初

入間市が東京工業大学ゼロカーボンエネルギー研究所『GXオープンイノベーション賞』を自治体で初めて受賞しました！この賞は、産官学、市民、地域の一部又は全体が連携したエネルギー技術の社会実装研究開発であるオープンイノベーションの発展に貢献した企業、団体等を表彰するもので、入間市の地域脱炭素の先進事例としての取組が高く評価されました。



柏木名誉教授より贈呈されたトロフィー

④全国社歌コンテスト

「どこから来たの？」3位&主催者特別賞を受賞

全国3位 県内第一弾

入間市で育つ子どもたちへの応援歌

いるまのこどもへ贈る歌「どこから来たの？」は、入間市で育つ子どもたちへの応援歌として、元気な入間・生き生き功労賞を受賞した杉山勝彦さんに作っていただきました。令和4年2月のNIKKEI全国社歌コンテストでは、「どこから来たの？ダンスリミックス版」が142の社歌の中から第3位と主催者特別賞を受賞しています。方方には子どもたちの安全を守る放送として、防災行政用無線から流れてきます。アナウンスは入間市在住の声優、山口由里子さんです。



市民から募った手形を披露した授与式



シティプロモーションで 入間市の魅力発信！

①ご当地映画 「ラストサマーウォーズ」 大ヒット **全国放映**

入間市を舞台にした、こどもたちのひと夏の冒険を描いた絆と感動の物語、映画「ラストサマーウォーズ」は、全国各地の劇場で公開されました。作中には入間市が誇る広大な茶畑と美しい自然や街並みも多く登場し、第13回ロケーションジャパン大賞にノミネートされました。



映画製作と同時に作成したロケ地マップ

②入間市ロケーションサービスの開始 **映画 CM ドラマ**

入間市ロケーションサービスにより、市内を舞台とした映像が広く活用されることで、シティセールス、地域経済の活性化、まちの魅力を再発見、地域コミュニティの向上に繋がっています。



監督や出演者と共に映画館での舞台挨拶

③スポーツ振興まちづくり条例を制定 **公認** スポーツアンバサダーを任命

令和5年9月、全ての市民の健康を実現し、活気あふれるまちをつくるために、スポーツ振興まちづくり条例を制定。条例制定記念イベントでは、BMXの試乗やボルダリング体験等を開催、多くの市民の方々に参加いただきました。また、入間市出身のアスリート達やチームを「スポーツアンバサダー」に選任。入間市のスポーツを盛り上げていただきます。



9名を任命したアンバサダー就任式

④いるまPR大使に朝日奈央さんを任命 いるティーもバラエティ番組に出演 **公認**

タレントの朝日奈央さんを「いるまPR大使」に任命しました。入間市出身の朝日さんは、小学2年生のときに「わんぱく相撲入間大会」に出場、女子の部で優勝した経歴の持ち主です。入間市にゆかりがあり、全国的な知名度や幅広い年齢層に支持されている著名人に入間市をアピールしていただくことで、入間市の知名度やイメージアップを図っていきます。



日テレ「しゃべくり007」に出演！



朝日奈央さんに任命書を交付

充実した市民サービスで 入間市をさらに住みやすく！

①子ども医療費18歳まで無償化を実現！

対象となる子どもは約15,000人から約19,000人へ **令和6年10月から開始**

令和6年10月から、子育て世代の負担軽減のため、これまで15歳までだった医療費を18歳まで拡大して支給します。これにより、対象となる子どもは約15,000人から約19,000人へと広がります。病院に行くことをためらわせない、医療につながる安心をすべての子どもへ届けます。

②特別教室へのエアコン設置を実現！

児童・生徒の快適な学習空間づくり、健康管理 **令和7年6月から開始**

児童・生徒の利用頻度が高い特別教室においては、児童・生徒の快適な生活空間をつくり、健康管理を図るため、エアコンの設置を進めています。避難所としての防災機能の強化にもつながります。

③給食費6カ月分を無償化

お弁当持参の児童・生徒の保護者へは給食費相当額を補助

令和5年7月～9月＋令和6年1月～3月の半年間、公立小・中学校の学校給食費の無償化を実施し、お弁当を持参している児童・生徒の保護者には、学校給食費相当額(小学生4,400円、中学生5,100円)を補助しました。



国産・無添加！入間市自慢の学校給食



大型モニターを活用した学び合いの授業

④小・中学校全教室に大型モニターを配備

ICT環境の充実、学校儀式のオンライン配信

教育環境の向上、ICT環境の充実のため、市立小学校16校、中学校11校に大型モニター(テレビ)を設置しました。学校儀式のオンライン配信や、特別教室を活用した分散授業ができるようになり、新しい学習様式に則った教育環境が整備されました。

⑤特別養護老人ホーム100床を豊岡地区(東町)に開設

入間市第9次高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画に基づき整備しました。



令和6年7月開設の特養ホームおおざ

⑥武道館及び5地区体育館の改修(地区体育館数NO.1)

体育施設の長寿命化、耐震化、バリアフリー化

入間市は、地区体育館を5施設も有する県内でも有数のスポーツ振興に力を入れている自治体です。令和3年度から順次、体育施設の長寿命化及び耐震化改修工事を進めています。多目的トイレの設置、施設内のバリアフリー化、照明のLED化等を進めています。

⑦中央公園テニスコートの人工芝化 運動公園プールのリニューアル

スポーツ振興くじ助成金の交付、プレーヤーの負担軽減

スポーツ振興くじ助成金の交付を受け、テニスコート4面をクレートコート(土のコート)から人工芝に改修し、プレーヤーの足腰への負担を軽減し、プレーしやすくなりました。市内企業からの寄附により、老朽化した運動公園プールを修繕し、温水シャワーも設置しました。



通年使用できる人工芝テニスコート

市民とともに乗り越えた 新型コロナウイルス対策

大切なものを守るため、ピンチをチャンスと捉えて、
国の交付金を有効に活用し様々な支援事業を実施しました。

令和2年度	72事業	12億7,990万8,000円
令和3年度	58事業	3億9,911万9,995円
令和4年度	58事業	10億6,179万9,000円
合 計	188事業	

➡ **27億4千万円！**

■子どもやその家族を守る

生まれる前から青年まで、
子どもたちの生活を支援しました。



R2	
保育料の減免	1,658万円
保育職員への慰労金	2,955万円
オンラインを活用した3密対策	8億1,123万円
児童・生徒の食費支援	1,103万円
学童保育室の保育料減免	1,574万円
	(349,500+15,388,400)
ひとり親家庭等の子どもを応援	4,930万円
応援特別給付金(子育て世帯)	4,761万円
R3	
児童・生徒の教育環境向上	4,382万円
R4	
応援給付金(妊婦)	6,235万円
応援給付金(出産・子育て)	8,463万円
新時代の学びを支える学習環境を整備	3,875万円
子育て世帯への物価高騰対策	3億2,588万円
応援給付金(若者)	9,324万円

■活動を守る

コロナ禍でも活動ができるよう
支援しました。



R2	
自治会優待カード	182万円
R3	
公民館サークル活動を応援	1,408万円
博物館オンライン配信の環境整備	620万円
R4	
公衆無線LANを整備	2,049万円
電子図書の拡充	439万円

■高齢者を守る

高齢者を支援しました。



R2	
要支援認定者のフレイル予防	370万円
R4	
老人クラブの活動再開支援	167万円
介護保険の訪問・送迎事業所への支援	883万円

■生命を守る

いのちを守る支援をしました。



R2	
医療機関等へ防護具などを提供	1,130万円
プレミアム付商品券の発行	1億6,658万円
R3	
電子申請システムを整備	1,042万円
自宅療養者への支援	2,170万円
R4	
プレミアム付電子商品券の発行	2億5,970万円

■仕事を守る

事業者から個人の方まで支援しました。



R2	
小規模事業者への支援	2億7,341万円
雇用確保のための奨励金	2,432万円
R3	
ニューノーマルに チャレンジする事業者の事業	9,318万円
雇用確保のための奨励金	32,41万円

◆その他、支援した事業者

ごみ収集運搬事業者、飲食事業者、地域公共交通事業者(路線バス、タクシー)、観光バス事業者、農産物生産者(茶業)、地域生活支援事業者、トラック運送業者など

入間市ってすごい!

好きです、入間市!

データで
見る

入間市の強み

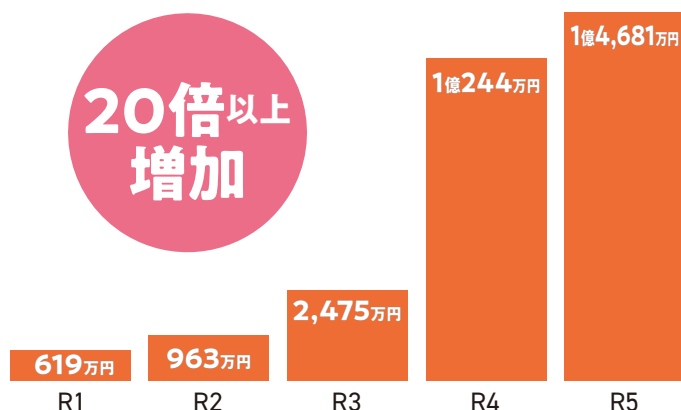


4年間で大幅UP! 全国から注目の入間市

① ふるさと納税額

約1億5千万円

20倍以上
増加



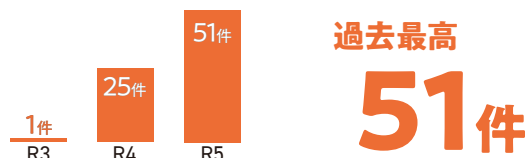
入間市のふるさと納税は飛躍的に成長し、寄附額は20倍以上の約1億5千万円になりました。



② 行政視察件数

入間市の政策が全国から注目され、行政視察の年間件数が過去最高の51件となりました。

大幅UP



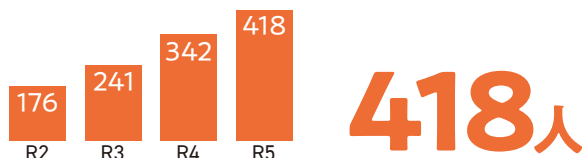
過去最高

51件

③ 市職員応募人数

入間市職員採用試験の応募人数が大幅に増加しており、400人を超えました。

大幅UP



418人

もともとスゴイ! 入間市のポテンシャル

① 市公式HPアクセス数

入間市のシティプロモーションの効果が現れ、市公式HPへのアクセス数が増加しました。

859万 アクセス

② 観光客数

官民連携で観光誘客を推進し、入間市の観光入込客数は約610万人に増加しました。

県内4位

約610万人

③ 手もみ茶全国1位 19連覇

全国手もみ茶品評会で入間市が「産地賞」を受賞し、平成18年から19連覇を達成しました。

日本一



2期目への挑戦 ~シン・入間市へ

新たな挑戦をし

親しみやすく信頼され

さらに伸びる真のまちづくりへ

目指す将来都市像と基本理念

来てよし、住んでよし、働いてよしのまち・入間へ

1期目の成果を2期目へと継承し、
入間市のさらなる発展をめざします

1. 失敗を恐れず挑戦する市政

2. 誰一人取り残さない地域社会

3. 価値を生み出す行政改革

パーパス

心豊かにいられる、
未来の原風景を創造し
伝承する。

情のある
理の政治へ

市政改革

3本柱

01

財政再建

入るを量りて出ずるを制す

- 財政推計70億円乖離の解消
- 公共施設マネジメントの推進
- 自治体クラウドファンディングの推進

02

未来投資

未来に花咲く種をまく

- 新産業団地の開発と企業誘致
- 狭山台地区近隣公園へのスーパー誘致
- 入間市駅北口&南口の開発
- SDGsとGXによる循環経済の確立

03

教育改革

子どもが輝くまちへ

- 学び合い学習の推進
- 進路に繋がる活動への支援
- 学校給食費トリガー条項の導入
- ヤングケアラー支援の拡充



ご意見ご要望はこちらまで

杉島理一郎後援会

E-mail sugi-kgk@m.ictv.ne.jp

プロフィール



活動実績



入間市
パーパスムービー



YouTube
チャンネル

